

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は掲げてあり利用者主体の方向性を出しているものの、「地域」という言葉は記載されていない。	○	地域密着としての意義を盛り込んだ理念を改めて追加したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議の場で理念について職員に意識付けを行っている。管理者は職員の日々の行動をチェックし、理念に沿ったサービスを提供しているか確認している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては理念を説明している。地域の人々に対しては、ホームを訪れた方には掲示してある理念を説明する。	○	地域に対してもっと広報していきたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの側の道を通って仕事に行かれる方や隣の田んぼで仕事されている方には挨拶や声かけしている。また、区長さんから町の広報誌の配布など立ち寄って頂いている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会に加入しており、地区のお祭りなどに参加させてもらっている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の場において、地区の老人会や婦人会、民生委員の方に成果を報告している。又、身近のお年寄りについての相談等がないか問い合わせに応じるようにしている。	○	独居老人の方を招待して、交流を深めたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価を受けるにあたり、職員で具体的な内容について話し合った。	○	評価の結果については、客観的に受け入れ足りない部分を改善していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当方からの報告の合間に必ず質問や意見を促す機会を設けている。又、意見や提案を受け止め職員で話し合っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関するマニュアル作りの為に意見を聞いたり、指導を受けに行ったりする。また、町の介護保険利用者の状況など、できる範囲での情報開示を聞きに訪問している。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員が利用者や家族に成年後見制度についての説明は行っているが、全職員でこれらについての勉強会は行っていない。	○	職員全員で勉強会を催し、みんなが説明できるくらいに理解しておきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は当然ながらあってはならないと全職員が考えているため、身体拘束についての意見交換をしている。	○	高齢者虐待防止関連法について学んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を十分に説明し、家族からの疑問点や質問を丁寧に答えるよう心がけている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者の意見を聞いたり、面会にこられた家族に要望を聞き、そ れを随時話し合い改善している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	定期的に報告しており、異常があった場合は随時緊急連絡をしている。また、3ヶ月 ごとに広報誌を送付している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や担当職員が家族とのコミュニケー ションを積極的に図り意見や不満を聞いて いる。又それらを職員会議で話し合い改善 するようにしている。重要事項説明書にも 苦情の受付先を明記している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員は毎期ごとに目標管理シートを作成 し、上司と話し合って目標達成へ努力して いる。又、各月ごとに行事担当者を決め、 職員の意見やアイデアを聞き行事に取り組 んでいる。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	必要時は上司が勤務の調整を行っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に不安を抱かせないよう極力異動、 離職の無いように人選をしているが、その 様な場合は利用者には十分説明している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	経営母体である社会福祉法人が採用を決めており求人案内などで広く募集し、年齢、性別に関係なく本人のやる気を見て採用している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で外部より講師を招いて、新人研修を行っている。又毎朝職員遵守事項を音読し再確認している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修の他に、毎月地区のグループホーム部会主催の研修やその他外部の研修に参加している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム部会の一員として研修や懇親会などに参加し、同業者とのコミュニケーションを図りネットワーク作りをしている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	上司は職員の悩みやストレスをいち早く察知し相談を受けやすい雰囲気をつくっている。また、法人全体で忘年会も催されている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が半期ごとに目標立て、達成できるよう努力している。また、毎年健康診断を実施しており、職員の体調に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人に積極的に話しかけ、困っていること、悩んでいることを理解、共有し安心して生活できる環境を提供できるよう努めている。	○	日々状況把握に努め、一対一での会話の機会を設け、本人の不安やニーズを把握し信頼関係を築く。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をじっくり聴き、利用者に対する思いや心配事を受け止めるよう心がけている	○	家族とのコミュニケーションをとる機会を作るため、誕生会、夏祭り、敬老祭などの参加を促す。
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人との会話の中からニーズと事業所のできるサービスを照らし合わせ、何が即時的に必要なかを選択して対応している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は本人と共通の話題を他の利用者を交え談笑しながら、より親密な関係を構築していけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、若いころの社会や生活の話を聴いて学ぶことも多い。又、食事の準備や後片付けなど一緒にやることで、支え合っている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対し積極的に行事への参加を促し、利用者の喜ばれている姿を見て喜びを分かち合っている。また、体調の変化や周辺状況をこまめに連絡し家族と共に支援していく関係であるように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は本人の入所前の状況を理解しており、家族とのコミュニケーションにより本人と家族との関係も把握している。また、本人から家族との連絡希望に対してこまめに電話などでの対応も心がけている。	○	家族が疎遠にならないよう誕生会行事の際に参加を促す。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に依頼して本人の知人へ面会に来ていただくようお願いしていただいたり、電話でのコミュニケーションをとってもらっている。	○	馴染みの人や場所に触れていただけるよう外出の機会を増やしていきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員は生活の中から利用者同士の間人関係を把握し、全員で参加できるレクリエーションや創作を通じて孤立しないよう努めている。	○	利用者同士での共同作業の機会を作り、一つのものを作り上げる事で関係が深められるよう製作に取り組んでいる。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時に家族や本人に対していつでも立ち寄っていただけるよう声掛けしており、家族からの要望があればその後の相談を受ける準備をしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにコミュニケーションをとり、今までの暮らし方や趣味などの話を聴き、又それができない方については家族からの話で本人の希望を把握し、検討している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活習慣や趣味の話を聴き、個性や価値観などを把握しその人らしく暮らしていく事を支援するよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中で、職員は全利用者の生活リズムを記録し、残している。その記録は一見して把握でき、特別な行動についてはその都度申し送りやノートに書き把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報を元に基本的なサービス内容を検討し、日々の生活の中で職員が気づいた事を定期的にアイデアとして出し、全職員で話し合い計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い長期目標を6ヶ月、短期目標を3ヶ月ごとに見直している。本人の能力に無理をきたすような目標と判断した場合随時見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作っており、利用者の状況や表情等を解りやすい言葉、文章で記録する事でよりよいケアに生かしている。またこれらの情報は共有し、これからの介護計画につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意見や要望を聞き、通院、外出、外泊などその時々々の希望に添えるよう柔軟に対応している。	○	家族や外部に対して当事業所ができることをアピールしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に民生委員の訪問があり、情報を提供していただいている。また、消防署から救急法の指導を受けている。図書館より紙芝居や本を借りてケアに役立てている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現在必要とされる利用者はいないため、おこなっていない。	○	今後介護保険以外のサービスを周知していきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では地域包括センターと協働はできていない。	○	今後困難事例や事業所内で解決できない問題などについて指導していただきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人へきちんと説明納得していただき医療機関への受診を行っている。その際には受診方法、受診結果など密に家族と連絡を取っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日常の利用者の行動をよく把握して必要時には専門医に相談し、治療方向の検討を行っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤で確保されており、24時間オンコール体制をとっている。いつでも相談、指示を受けられ、必要時は来園する事も可能である。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症進行防止の為面会を頻繁に行い、家族、医療機関との情報交換、提供を密に取っている。又、入院中の状態を把握し早期退院への援助を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護についての説明書を作成し、家族に説明している。仮に終末期を迎えても本人や家族の意向により受け入れの態勢はできている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の介護について家族に説明しており、事業所としてできることを検討している。現在まで該当者はいないが、受け入れる準備をしている。	○	具体的な内容について全職員で話し合いを行っていききたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の昼、夜間の状況、嗜好、ケアの内容など詳しくまとめ次のケア関係者へ情報提供を行いダメージを最小限に抑えるよう努めている		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳に配慮し、プライドを傷つけないよう声掛け、対応を行っている。又、個人情報の漏洩に最新の注意を払い外部で利用者の話題を持ち出さないようにしている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自己決定できるように雰囲気を作っている。また会話、表情の中から把握できるよう努めている。なかなかできない方に対しては選択肢を用意して決定していただくようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意思を尊重するように心がけているが、どうしても一日の流れに利用者がかかわることが多くなりがちである。	○	利用者本人の希望をもっと聞きだしそれに沿うように努めていききたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容師に依頼して来訪してもらっている。本人の希望があればパーマや顔そりなどのサービスも提供可能である。普段着も本人の好みを自主的に選んでいただいている。	○	月一回ではあるが、身だしなみやおしゃれ(化粧など)みなさんと楽しんで頂く日を決めている。また、外出時は化粧したり、おしゃれして出かける。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聴きながらメニューを調整している。調理の下ごしらえや後片付けなど利用者のできることを手伝っていただき、職員と利用者と一緒に楽しく食事をしている。	○	誕生日などには特別メニューがある。また、バイキング等自由に好きなものを食べて頂けるメニューを作っていきたい。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは買い物に行き好きなものを買ってもらう。飲み物はジュース、コーヒー、お茶など好きなときに自由に飲めるようにしている。	○	糖尿病の方のおやつに気をつけている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は布パンツで過ごしていただいている。あまり尿意を訴えない利用者については生活リズムを把握し3時間ごとに声かけして誘導している。	○	できれば尿パットの使用も減らしていきたい。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のペースでゆっくり入ってもらっているが、職員の時間の許容範囲が限られており「いつでも、自由に」とまでは対応できていない。	○	できる限り本人の希望通りに入浴できる体制を作っていきたい。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者は全員個室でエアコンが完備してあるので、一年を通して快適に休息したり、眠れるようになっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いなどの役割や地域行事の参加、散歩、ドライブなど気晴らしの支援をしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては買い物の時職員の見守りのもと自らレジにて支払いをしていただいている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時はドライブや散歩に出かけている。また、家族に連絡し家族と外出できるよう支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	長時間の外出に耐えられない方もいる為遠方への外出は家族の支援がないと実現しにくい。本人の希望と家族の事情を調整する事での支援はしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時はいつでも電話は掛けることができる。また、手紙も年賀状など出せるよう支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会に来ていただく方にはいつでも気軽に訪問していただくよう声かけをしている。又、本人の誕生会は家族に連絡し訪問の機会を作っている。	○	家族や知り合いの方が気軽に参加できる催しをもっと開催していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で話し合っている。	○	勉強会を開きもっと詳しい知識を共有していきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中利用者はほとんどリビングに集まっておられ、職員は一人ひとりの所在を確認している夜間は定期的に個室を巡回し利用者の変化に迅速に対応できるよう努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤の在庫は利用者の目の届かないところに保管しており、料理用の包丁は常に保管ボックスへ収納してある。また、利用者が一人で注意の必要な物品の近くへ行かないよう職員は常に所在を確認している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況を把握し全職員で話し合い事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットを報告し、対策を検討している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や心肺蘇生法の勉強をおこなっている。	○	いろいろな場合の急変に対応できるよう定期的に勉強会を開きたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練、防災訓練を消防署の指導のもと行っている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的に避難訓練をおこない職員一人ひとりが確実に利用者を誘導できるよう災害時に備えている。また、非常食も常備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックの他に日々の生活の中で利用者を常に観察し、異変に気づけば直ちにバイタルを再確認し医療につなげるよう努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書をファイルしており、全職員が理解している。また、受診の際薬に変更があれば、看護師より確実に申し送りがあり、説明書を確認している。糖尿病患者の低血糖時の対応も理解している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ自然排便を勧めているが排便チェック表で数日間排便が無い場合など下剤を服用していただく事もある。毎日の軽体操などで体を動かすよう促している。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアに誘導しているが、拒否がある方などは夕食後必ず口腔ケアを促し、介助している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事と水分の摂取量をチェックしており、利用者の嗜好に応じて変化をつけている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成しており、実行しているが、限られたもののみである。又全職員毎年インフルエンザの予防接種を受けている。	○	多種の感染症に対しての予防策について全職員が周知しておきたい。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日配達され新鮮なものを使用している。常にキッチン用アルコールやキッチンハイターを使い衛生管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花やプランターを置きやわらかい雰囲気を作っている。また、スロープがあり、段差の無い玄関や建物となっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭にある木々が季節感を出しており、利用者は四季を感じる事ができる。また、季節に合った製作や写真を定期的に代えながら掲示している。	○	折り紙の飾りつけが幼稚にならないよう心がける
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルの他に3人用のソファが3つあり、又、畳スペースも有してある。	○	現在喫煙者はいないが、これから考えていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族には今まで使い慣れたものを持ってきてもらうよう促しているため、利用者によっては仏壇やテレビなど持ちこまれてある。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には換気扇とエアコンは完備しており職員は居室の環境をこまめに確認している。又利用者に声掛けし一人ひとりの感覚で調整するよう努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビングの床には物を置かないよう心がけ転倒防止へ努め、居室での家具やポータブルトイレの配置をこまめに移動させている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは大きな文字で表示しており、各居室には本人の名前やわかり易い目印を付けて混乱を軽減している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先に花を植えられるようなスペースを確保しており、春には花植えをして頂いており、季節によっては散歩や日光浴を楽しんでもらっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	-	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	-	○利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	-	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	-	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	-	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	-	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	-	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

山の麓に建っている当ホームは四季の移ろいを肌で実感でき、自然とのゆったりとした時間を共有している。利用者主体の生活を送って頂くことをモットーに利用者職員が家族のように笑い合い、助け合って日々を過ごしている。時には利用者間でのケンカもあるが、職員だけでなく他利用者の方も仲裁に入ったりして自然と治まっている。又、地域の催しに積極的に参加させて頂き外部とのコミュニケーションも図れるよう心がけている。